

か  
日  
正

のんほかの森から大朝日岳をのぞむ

広報

# あさひまち

ASAHI-MACHI

1994  
JAN.  
月号  
NO.446



新 / 春 / 座 / 談 / 会 /



# いま、転入・Uターン者とまちづくり

最近、町から転出する方がいる一方で、都会から転入して来る人やUターンしてくる方が増えています。

今月は新春座談会として、これら転入・Uターンされた方に清野町長を加え、町の魅力や定住について話し合っていただきました。

## 新春座談会

### 出席者



清野 隆 町長



館山久美子さん(西 町)



司会 松田 栄子広報委員

## 朝日町の魅力にひかれ 転入してきました。

### 司会

新年明けましておめでとうございます。本日は町に転入して来た方や、Uターンして来た方にお集まりいただき、定住をテーマにいろいろ話し合っていただきます。

本題に入る前に、まず昨年を振り返っていただきましょう。

**■志藤**わたしは高校卒業後東京消防庁に勤めていましたが、

一昨年の十一月にUターンしてきました。長男だったので、家に帰つて来たということです。

昨年は、一人前のりんご農家になろうとがんばった一年でした。

**■館山**わたしも、志藤さん同様りんごつくりをしています。昨年の五月に、夫と子供二人で東京からこちらに転入してきました。そしたら、わたしの両親も九月に朝日町へ引っ越して来ました。

昨年は、何から何まで初めての体験だったのに夢中で過ごしたというのが実感です。

**■安藤**わたしは、養蜂業のかたわら蜜ろうからロウソクを作っている「蜜ろうキャンドル」を作っています。昨年は、この蜜ろうキャンドルが新聞や雑誌などのマスコミに取り上げられ、だいぶ宣伝になつた一年でした。

**■町長**昨年の十二月で町長就任以来丸一年が経過し、二年目を迎えてます。昨年は、十月に役場内に定住係を新設し、若者定住に向け始動した年だった

よう思います。

**■司会**その定住係は、具体的にどんな仕事をなさっているのですか。

**■町長**みんなご承知のとおり、町の人口は年々減少しています。特に若い人が少ないため



今年も由山間地の魅力を生かした町づくりが積極的に進められます。(のんほかの森から宮宿地区をのぞむ)

高齢化率が高くなっています。定住係では若者の定着を図り、町に活力をつけるため、さまざまな業務を行っています。一つは、昨年造成し完売なり

町づくりでは若者の定着を図り、町に活力をつけるため、さまざま

な業務を行っています。一つは、昨年造成し完売なり

町に活力をつけるため、さまざま

な業務を行っています。一つは、昨年造成し完売なり

町に活力をつけるため、さまざま

## 子どもたちに町のよさや誇りを

### 教える親の姿勢が大切ですね。

#### ■司会

その定住係へのアドバイスにもなろうかと思いますが、転入やUターンの動機について

伺いましょう。

■志藤

わたしの場合、年齢的にも三十歳となり、子供が二人おりましたのでこのまま東京で暮らすか、田舎に帰るか決めなければならぬ時期に来てい

ました。そんなとき、父親が体調を崩して、両親だけで農業を続けるには厳しい状況になってしましました。そこで、農業で食べて行けるなら、農業をやってみようということで決意をしたということです。

■館山

わたしたち夫婦はもともと自然が大好きで、いずれ将来は田舎で暮らしたいという希望をもっていました。

そんな折り、ある雑誌に大滝の奈良崎美雄さんが、りんごづくりに情熱的に取り組んでいる様子が紹介されました。それが目に止まり、りんごづくりにと

少し無謀だったかなと思いましたが、今はこちらに来てよかったですと思っています。

■司会

りんごづくりの仕事はだいぶ慣れましたか。

■館山

全くの素人なので、回りのみなさんからいろいろ教えていただき、何とか収穫できました。仕事に追われっぱなしの一年でしたが、一

日中夫婦一緒に、これ以上に絆が深くなつたと思っています。また、後継者の結婚問題についても今後の事業展開に備え、情報を収集、分析しているところです。

それはよかったです。安藤さんはUターンではないと思いますが、どんな動機で養蜂業を継いだのでしょうか。

#### ■安藤

そうですね。父の跡を継ぐことについては、そんなに格別な動機はなかつたよう思います。高校を卒業したばかりのころは、都会に対するあこがれもあって山形市内のロックバンドに入つたりしていました。

そんなとき、山形の友人を朝日川に案内する機会があり、山や川の魅力に気づきました。それから、自分の心は森へ森へと向いて行つたように思います。

その結果が蜜ろうキャンドル

という形になつたのだと思います。でも、都會を捨てたという訳ではありません。都會の持つ



ふじりんごの収穫に精を出す館山さんご夫妻



蜜ろうキャンドルをつくる子供たち



町の魅力について話し合う出席者のみなさん

情報量や娯楽などは時々行つて楽しんでいます。そういう意味で朝日町は、山形にも近いし高速道路にも近いので、交通が不便だとは言えないと思います。

■司会

都会に目を向けている若者に何かありませんか。

■安藤

それは仕方のないことだと思います。若いときは、大抵の人が一度は都会にあこがれるのではないかと思うが、実際に都会暮らしを経験して、都會の悪いところや町のよさに気づく

くのだと思います。ただ、親として自分の子供には、小さいころから町の魅力をたくさん教えたいと考えています。

■町長

わたしも同感です。若者を定住させるためには、児童の時から朝日町のよさを教える必要があると思っています。家族みんなで、町の誇り得るところを話し合ってはいかがでしょうか。学校教育だけでなく家庭教育も大切ですね。

## ブナ林に代表される豊かな自然と心温かな人間性が魅力の町。

■司会

そうですね。町民一人ひとりが町に自信と誇りをもつて、生き生きと暮らしているということが大切ですね。家庭というと女性の役割も大きいと思いますが。

■町長

確かに家の中で、おかあさんが輝いていると家庭全体が明るくなります。そこで町では、お母さんたちが生みやすい、育てやすい環境を整備することに力を入れています。

その一つが、第三子が誕生した時に祝い金を差し上げるとい

うものです。そのほか、「志藤六郎村おこし基金」の中には、既婚女性を対象とした海外派遣事

業などもあるので、大いに活用したいと考えています。

■司会

ありがとうございます。女性の一人として大いに期待しています。町に誇りを持つと言つても、町に魅力を感じなければ話にならないと思います。みんなにとって、町の魅力とはどんなところでしょうか。

■志藤

妻とよく話すんですが、子供たちの教育環境は、東京よりもはるかによくなつたと思ってます。山や川、虫たちといつた自然一杯の中で暮らせるのは何よりの魅力です。また、子供たちとの触れ合いの時間が多くのものも、農業の特権かなと



慣れた手つきで摘果作業をする志藤さんご夫妻



ブナの新緑を求めてやってくる都會の人たち（朝日鉱泉）

がとても魅力ですね。

■安藤

わたしにとつて、町の魅力はたくさんあります。もちろん、朝日連峰のブナの原生林に代表される豊かな自然もその一つです。

今特に感じることは、町が好きな人たちの輪が広がっているということです。将来楽しいことが起こりそうな予感を抱かせる町だということです。

例えばエココミュニティ研究会のみなさんの活躍、F21の研究員の活動などをみると、町には結構魅力的な人間がたくさん

いると思うようになりました。

この町長の発言が、まさに町の魅力を最もよく表現していると言えるでしょう。

■町長

確かに、この町は自然豊かな環境で、人々が安心して暮らせる場所です。また、子供たちの教育環境も充実しており、地域社会も非常に活性化していると言えます。

■志藤

妻と一緒に、この町で子育てを楽しんでいます。自然豊かな環境で、子供たちが元気よく成長できる環境が整っていると感じています。

■館山

わたしも手つかずの美しい自然があるのが一番だと思います。それからよそから来た人は対し、とても優しく受け入れてくれるという、温かい人柄



(上)：安藤さんが2年がかりでつくり上げた手づくりドームハウス「ビーズ・ファーム」工房。(立木集落内)  
(右)：蜜ろうキャンドルのいろいろ。すべて手づくりの製品。  
(左)：工房でキャンドルづくりにとりくむ安藤さん。注文は全国各地からよせられる。



## 私たちが生き生きと暮らすことが 転入、Uターンに結びつく。

■司会　なるほど自然だけではなく、人間的にも魅力ある人た

ちがいる町。それが朝日町だと  
いうことですね。最後に、今年に  
かける抱負を伺いましょう。

広域的に取り組むべきだと考  
えています。

先程からみなさんがおっしゃ  
るよう、わが町には豊かな自  
然がたくさんあります。この自  
然を利用することを考えなけれ  
ばなりません。イベントなどに  
より交流人口ということも、定  
住対策と同時に考えることが大  
切だと思っています。

■志藤　小さいころから父の農  
業をする姿を眺めていて、正直  
でした。でも、サラリーマンを  
体験して、農業のよさに気づい  
たのだと思っています。これか  
らは、子供がわたしの農業で働く  
姿を見て、農業はいいなと思  
えるようなそんな農業をめざし  
たいと考えています。

■館山　昨年は、とにかく仕事  
に追われっぱなしで回りを眺め  
る余裕がありませんでした。今  
年は、少しでも自分の自由な時  
間をつくりたいと考えています。

■安藤　昨年、ようやくドーム  
ハウスの工房が立木の白倉橋近  
くに完成しました。今年は、そ  
の工房で蜜蜂を見てもらったり、  
蜜ろうキャンドルつくりを見学

できるような施設にしたいと考  
えています。将来は、エコミユ  
ージアムのサテライトの一つに  
したいですね。

■町長　これから定住対策は、  
わたしも含めて、町に  
住んでいる人が生き生きと暮ら  
すことができればいい町になり、  
それが町への転入やUターンに  
結び付くように思われます。そ  
れぞの夢の実現に向かつて、  
がんばって下さい。本日はあり  
がとうございました。

■司会　わたしも含めて、町に  
住んでいる人が生き生きと暮ら  
すことができればいい町になり、  
それが町への転入やUターンに  
結び付くように思われます。そ  
れぞの夢の実現に向かつて、  
がんばって下さい。本日はあり  
がとうございました。

あいさつ

# 新年



## 町民の知恵と力の結集を

朝日町長 清野 隆

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、輝かしい新春を迎えたことと、心からお喜び申します。昨年は、長引く経済不況、冷夏による水稻の大凶作など厳しい社会情勢の波の中で暮れました。

町政を担当し一年が経過いたしましたが、その間皆様からは率直なご意見、ご提言、ご指導を賜り心から感謝申し上げます。本年は、急激な社会情勢の変化により、財政はじめ町を取り巻く環境は、決して楽観出来ません。私は辛抱の年だと思っております。

しかし「福祉と健康の町づくり」、「教育の振興」、「若者定住と環境整備」などを基本として、特別養護老人ホームの建設、大沼分校の建築、北部公民館建設などをはじめ、若者定住促進のための環境整備に全力を傾注して参る所存であります。

町づくりは、町政を担当するものの力だけで成し得るものではなく、本町に住む皆様の知恵と力の結集が不可欠であります。山積する課題解決のために、なお一層のご理解とご協力を願い申し上げますと共に、皆さんのご多幸をご祈念申し上げ年頭のあいさつといたします。



謹

賀

## 重要事業の推進に全力

朝日町議会議長 佐竹 薫

新年明けましておめでとうございます。

一九九四年の輝かしい新春を迎えて、町民のみなさまには、健康で幸多い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年は百年に一度という大冷害に見舞われ、水稻をはじめ農作物に大きな被害を受けられた農家の方々には心よりお見舞いを申し上げます。また、景気の低迷と長引く不況の影響で、町内企業にとりましても極めて厳しい状況が続いておりますが、今こそ力を合せて乗り越えなければならぬと思います。町づくりにおいては、「地球にやさしい活力のまち」をめざす第三次朝日町総合開発基本構想のもと、雇用促進住宅および住宅団地造成工事、ふれあいの里整備計画の着手など重要事業を推進することができました。

本年は、町内外ともに極めて厳しい財政状況のなかではありますが、二十一世紀に向けた町の最重要課題である「ふれあいの里整備事業・特別養護老人ホーム」建設をはじめ、大沼分校および雇用促進住宅の建設、北部地区公民館整備事業推進など、議会といたしましても全力を尽くしていくなければならないと存じております。

重要な時期に当たり、今後なお一層町民の皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

# 農協」誕生 気に加速

## 契約書に調印

寒河江、朝日、河北、大江、西川の一市四町の農協による合併予備契約調印式が昨年十二月九日、寒河江市農協で行われ、今年四月の合併が一気に進むことになりました。

また、新農協の名称についても、公募（応募総数二百六十七点）の中から「さがえ西村山農業協同組合」に決定し名称発表も併せて行われました。

当日の調印式には、五農協の理事、監事ら役員と各市町の首長ら約百三十名が出席。寒河

江・西村山農業協同組合合併推進協議会長の菊地真寒河江市農業組合長が「合併は、国際化や金融自由化に対応できる体质強化のために、行わなければならぬ。組合員のご理解を得ながら、寒河西西村山の農業振興に全力で取り組みたい」と式辞を述べました。

その後、新農協の名称「さがえ西村山農業協同組合」の看板をステージに掲げ、合併がいよいよ現実になることを確認しました。

# 町民のひろば



コテージの一室に設置されたパソコン

## 「紅はなの丘」構想の実験スタート

### 自然観コテージが快適仕事場

一棟にパソコンやファックス設置

県内の内陸地方四市五町を範囲とした「紅はなの丘」構想の一つ、「田園サテライト・コテージ」の実験が朝日自然観で本格的に始まりました。

この構想は、県民の森のある白鷹丘陵一帯を自然環境を活かした整備を行い、都市との交流を図りながら農村の活性化をねらいとしたものです。その中の一つが田園サテライト・コテージといわれるものです。これは、

高密度情報通信網を利用して都市の仕事場を自然環境豊かな場所に移し、効率的な仕事をめざそうという試みです。

実験センターのオープン式は、去る十月二十九日に行われましたが、十二月二十日にコテージ四号棟にパソコンやファクシミ

リが設置され、本格的に使用できるようになりました。料金は料二千円と電話使用料などが計算されます。

この実験はしばらく続けられ、利用者の需要などのデータを収集することにしています。

### エイズ予防講演会

#### エイズに対する正しい知識を

#### 高校生・婦人ら200人が参加

エイズ（後天性免疫不全症候群）に対する正しい知識をもつて予防してもらおうと十二月十六日、町中央公民館でエイズ予

防講演会が行われました。

エイズに感染した人間は、病原体に対する抵抗力が弱まり、発病後三年ぐらいで死に至ると言っています。現在のところ、特効薬が発見されていないため不治の病とされています。

当日は、(社)日本家族計画協会の北村邦夫先生を講師に迎え、朝日分校生六十名を含め、婦人会一般の方など二百名を越えるみなさんが熱心に耳を傾けました。

先生は、エイズの感染経路について①性行為②母子感染③輸血の三点をあげ、特に性行為にかかる感染について詳しく説明されました。



ユーモアを混じながら高校生に話しかける北村先生

# となりのリソコンさん

作・ホリイ (61)



※今回からタイトルが変わりました。



会専務理事となり、翌年会長に就任した。以来、宮宿町農協や養蚕農協、農業共済の理事、組

十四日生)は、長じて水本の農業岡崎吉助家に入籍すると、次第に才能を發揮していった。先ずは道路の新設と拡幅に力を入れ、地区民の人望を得る。

昭和二十一年春、宮宿町農業

水本と新宿を結ぶ路線は、時代とともに人々の往来が消えてしまったかのようである。しかし、行き来した人々の胸には、

山々の緑と当時の思い出があざやかに残り、峠道から眺めた光景は眼に焼きついている。

この山道を永年行き来するこ

とになる吉郎(明治三十年八月四百三十三人、出資金二十九億二千九百四十六万六千円、さくらんぼとラフランスの生産量では日本一の農協となります。

岡  
崎

吉

郎

—新生朝日町の初代助役—

きち

ろう

書に署名しました。  
寒河西村山の広域農協合併について、平成三年九月に合併研究会を発足させ部門別に検討を始め、平成五年の四月からは、専従職員を配置した研究会事務所を寒河西村山農協に設置し、具体的な作業を進めてきました。

今回の調印によって、今年四月一日から新農協がスタートする体制が整つたことになります。「さがえ西村山農業協同組合」が実現する、組合員数一万五千四百三十三人、出資金二十九億二千九百四十六万六千円、さくらんぼとラフランスの生産量では日本一の農協となります。

代とともに人々の往来が消えてしまったかのようである。しかし、行き来した人々の胸には、

山々の緑と当時の思い出があざやかに残り、峠道から眺めた光景は眼に焼きついている。

小さな  
人国記  
45

# 4月に「さがえ西村山合併に向け一

## 5組合広域合併予備



合併予備契約書に署名する鈴木山形朝日農協組合長

代とともに人々の往来が消えてしまったかのようである。しかし、行き来した人々の胸には、山々の緑と当時の思い出があざやかに残り、峠道から眺めた光景は眼に焼きついている。

一方、昭和二十三年からは宮宿町議会の副議長となり、町政全般にわたって才能を發揮し、人の和を保つづけた。

昭和三十年二月に朝日町助役就任、町村合併後の初代助役として敏腕をふるつた。その後、昭和三十八年一月、任期満了により退職するまで新生朝日町の基礎づくりに貢献する。

歩きなれた水本新宿路線も、多忙の中で家に帰れない日々が多く、宮宿の旅館に泊ることが勢い増えていく年月であった。

退職後は悠々自適の生活ながら人々に接し、豪快な笑い声とともに得意な祭文を語り、まさに大人の風格があった。

岡  
崎

吉

郎

きち

ろう

歩きなれた水本新宿路線も、多忙の中で家に帰れない日々が多く、宮宿の旅館に泊ることが勢い増えていく年月であった。退職後は悠々自適の生活ながら人々に接し、豪快な笑い声とともに得意な祭文を語り、まさに大人の風格があった。昭和五十九年七月十日朝、多彩な業績を残し生涯を閉じる。多

文・杉ひさし

# 朝日町の昔話

# むがす むがす

# あつたけど

幼いころ、おじいさんやおばあさんから聞いたとんと昔。楽しい話やこわい話など、いくつになつても不思議と覚えているものです。昔話は、今のわたしたちが忘れかけているものをそつと教えてくれるようです。

## 犬と猫の恩がえす

(立木・故菅井そで)

昔、あつ所に、犬と猫は飼つてたづんつあどばんちやえだけど。洗<sup>ある</sup>て流したほど貧乏<sup>ひんぱう</sup>で、三度三度の飯<sup>まほ</sup>も食んにえごどあつた。

あつ時、犬と猫は言つた。「づんつあ、はんちや、おらたは旅<sup>え</sup>さや<sup>け</sup>ろ、きつと宝物<sup>たからもの</sup>ば見けてくつがらな」

旅<sup>え</sup>さ出だ犬と猫は、國中、山も谷もくまなく歩<sup>あら</sup>えだ。ある山ん中で、大つきな金の塊<sup>きん</sup>ば見<sup>ゆ</sup>けて喜んだ犬と猫は、急<sup>いそ</sup>いで家<sup>さ</sup>戻<sup>もど</sup>つだぐなた。

帰<sup>か</sup>る途中、大つきな川ささすかがた。川は幅広くて渡んな大変みだえだ、んだげんと、川上の幅狭い所<sup>しづは</sup>さ行<sup>い</sup>ぐにや四、五日は遠つがぐなる。ここは一つ、なずえしたら金の塊<sup>きん</sup>ばたがて渡るえが、犬と猫は、川岸<sup>きし</sup>さ座りごんて腕組みして、首<sup>くび</sup>は右さ曲<sup>まげ</sup>左さ曲<sup>まげ</sup>、考えだけどお。

ほの考えは、猫が金の塊<sup>きん</sup>ばくわえで犬の背中<sup>せなか</sup>さんばる。犬は猫より泳ぐえさげ、猫ば乗<sup>の</sup>しえで、がんばて泳ぎ渡んべ、て言うごどえなた。川は広くて、向<sup>むか</sup>えの岸が遠つがえさげ、大変なごどこの上なえ。んでも、犬と猫はがんばた、がんばつた。えま少<sup>すこ</sup>すで岸<sup>し</sup>さ着<sup>き</sup>ぐ所まで行つけどお。

ほしたら、猫が嬉<sup>う</sup>すぐなで「ニヤオ」てなえた。口あえだら、くわえ

飴<sup>あめ</sup> 売<sup>うり</sup>り (太郎一・長岡とい)

飴屋<sup>あめや</sup>いだつたど。飴箱<sup>あめばこ</sup>かづいて飴売りにくるピーヒヨロヒヨロって、ならしてね。

飴屋一人<sup>ひと</sup>いであつたけどお。飴屋一人<sup>ひと</sup>はありいたつたけどえつちよまえになつたはげ、奥さん欲しいたれば、いい奥さん来てけだんだと、飴屋<sup>あめや</sup>どごさ。すばらしい、器量のいい奥さんでなあ。

そして、あの、飴屋仕事<sup>あめや</sup>しねくなつたんだと。飴売りぱりしてらねえ、百姓も少しきねばなんねくて。もの作つて食ねばなんねえ。あんまり器量よくて、見ていくくて、見ていくなくて。見でぱりいつど、百姓さつねぐなつてしまつたさげ、奥さんの絵図描<sup>か</sup>いてもらつたど。はいづ(それ)畑<sup>ば</sup>さ持つていつて、はいづ見て稼<sup>う</sup>いでいだんだけど。

ほしたれば風吹<sup>ふう</sup>いできたんだと。奥さんはいづ(これ)、どきかふつどんでいつて無くなつたんだと。ふつとぶ、ふつとぶ、ほうしたら、すばらしい旦那衆<sup>だんなしゆう</sup>の庭、御殿<sup>ごてん</sup>みたいなどころさふつとんでつて、殿様<sup>とのさま</sup>のお



## 生き生き婦人パワー

第14回町婦人まつり

町連合婦人会主催による婦人まつりが、去る十二月十一日町中央公民館に四百人を越えるお母さんたちが集まり盛大に行われました。

このまつりは、五月から二月まで行われている婦人文化教室の発表の場として、毎年開催されているものです。



婦人パワーが民謡体操に結集しました。

つだ金の塊はなずえなる。」「ボチャントー川の中さ落つぢえすまた。

はて、困た、困てすまた。犬と猫は空手では家さ戻らんにえ。又、腕組みして、首ば右さ曲げ左さ曲げ、考えだげんど、良え考え方など浮かぶわげなえ。

すばらくたつた。ひよえど川ん中見だら、大つきな鯉が「ぬーつ」と泳えてきた。

「ほれ、しえめろ」猫は鯉の頭さ爪掛ける。犬は尾びれば押さえるしで、鯉ばんまぐしえめた。ほして、犬と猫は、づんつあとばんちやの住む家き、わらわら行くだぐなつた。

犬と猫は、今までのえきさづ(いきさづ)ば、二人さよつ語つて、

「鯉一匹つか持てこらんにえがつたけんと許してけろ」と言った。

「づんつあとばんちやは、二匹が戻てきたさげ喜んだのなんの。良く帰ってきた。帰てこねがと思って心配したけ」と言った。

「こだえ大きな鯉、よーぐしえめたな。すぐ料理さかんべ」ばんちやが包丁で切つたれば、「ガツツ」つて引かがたものがあつた。ほれ

こそ、猫が川さ落した金の塊だつた。

この宝物がさすかたお陰で、づんつあとばんちやは、一ぺんに長者どなつた。犬と猫もみんな幸せに暮らしたけどお。

「この女子ば笑わせだ人さ、何でも欲しいものける」と思つて奥さんば笑わせたけど、絶対笑わねのだと。

「ほしたら、これを飴屋聞いてなあ、

「どれ、んだら俺ひとつ行つて笑わせてくるべ

「なんでも欲しいものける」と思つて飴屋飴箱かついで行つたんだ。

つてんだと笑わせた人さ、殿様。

飴屋行つたらば行ぐどから(直後から)、ニコニコつて笑つてはあ笑つてなあ。そしたれば殿様よお、飴屋の真似してなあ、殿様の着物ば飴屋さ着せで、飴屋の着物われ着て、そして飴屋するとおりしたんだとお。そしてみんなに笑われて、城中でばり、座敷でばり笑つていられなくなつて、外さ出はつて行つたんだと。門から外さ出はつて行つたんだとお。

そして夜上がりして飴屋殿様の着物着て、何日待ちでも来ねくて、殿様どこまで行つたんだか、こねくてよお。そして奥さんと一緒になつたんだと、元の奥さんと。飴屋、殿様の着物着て殿様になつたと。

庭さ落ちだ。

はいづ、殿様の息子、お庭さ落ちたの見たれば、きれいな女子だと。欲しなつたんだとはあ。ほして、「こだな女子、どごいたへ。たねで(搜して)来た人にご褒美ける」

つてな。ほしてザツパリたねで、たねではあ、たねらいだんだと、飴屋の婢つて人。ほして奥さんへで(連れて)こらいた。きれいだ飴屋の婢だけど。うんだけど、へで来たけんど何日暮らしたつて笑わね女子だつたどお。困つて、

「この女子ば笑わせだ人さ、何でも欲しいものける」と思つておふれ回したんだと。ほしたれば、いろいろな人來て奥さんば笑わせたけど、絶対笑わねのだと。

「ほしたら、これを飴屋聞いてなあ、

「どれ、んだら俺ひとつ行つて笑わせてくるべ

「なんでも欲しいものける」と思つて飴屋飴箱かついで行つたんだ。

つてんだと笑わせた人さ、殿様。

【総合の部】①佐藤倫久(5年・大谷四)②白田美和(6年・栗木沢)③若月麻衣(5年・西船渡)④阿部記和(6年・夏草)

⑤鈴木浩子(5年・西船渡)

【読上算の部】①白田美和(6年・栗木沢)②鈴木浩子(5年・西船渡)③白田敦子(6年・栗木沢)④川口紀子(5年・大暮山)⑤佐藤倫久(5年・大谷四)

## 第28回 朝日町珠算競技大会

(12/12・町民体育館)

- A プロック / ①プリンス&プリンセス(大谷一・三・六)②大谷田中③前田沢
- B プロック / ①和合A②常盤
- ③クリスタルレッド(大谷五)

## 第20回朝日町家庭婦人バレーボール大会

(12/12・町民体育館)



「バチ、バチ」より速く、正確に

これらの話は、「あさひまちF-2」教育文化プロジェクトの民話と昔話のグループが発行した「朝日町の昔話集」と、東京に本部のある民話と文学の会が発行した「山形・朝日町の伝承」から抜粋したもののです。

「山形・朝日町の伝承」は残りわずかですが、教育委員会生涯学習課にあります。購入ご希望の方は、生涯学習課へお問い合わせ下さい。

# 金のニワトリ

(八ッ沼・小松寿一)

ハッ沼城の本丸に、金のニワトリが飼ってあった。  
そこで、最上義光に攻められて、落城するとき、金のニワトリが、沼に飛んで行って、沼に入ったとかって。

そこで、そいつからつながって、正月の元日の朝暗いうち鈴ヶ森のトリの声って七不思議の第一番にあるんだけど。

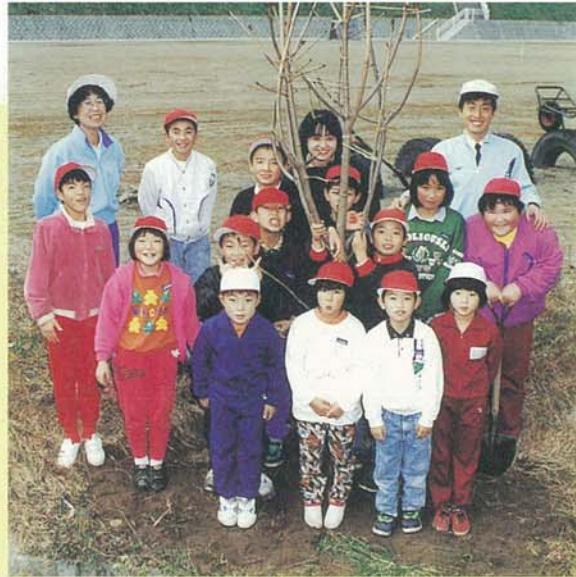
正月の元日の朝暗いうち鈴ヶ森から、あの金のニワトリが飛んで来て、ハッ沼城に向かって、飛んで消えるんだとかってな。

これらの話は、「あさひまちF-2」教育文化プロジェクトの民話と昔話のグループが発行した「朝日町の昔話集」と、東京に本部のある民話と文学の会が発行した「山形・朝日町の伝承」から抜粋したもののです。

「山形・朝日町の伝承」は残りわずかですが、教育委員会生涯学習課にあります。購入ご希望の方は、生涯学習課へお問い合わせ下さい。

# 第3回地球にやさしい作文・活動コンテスト

## 立木小学校が文部大臣賞に輝く



立木小のみなさんおめでとうございました

地球環境を守るために、私たち一人一人に何ができるかを考える「第二回地球にやさしい作文・活動報告コンテスト」（読売新聞社主催）が昨年十一月に開催され、小学生の部で立木小学校六年の大井寛治君がみごと文部大臣賞に輝きました。

これは、学校あげての「ヤマメの養殖」や「環境新聞」などの環境学習活動が認められたものです。

### ■小学生の部・文部大臣賞

## ぼくたちの ヤマメを守ろう

立木小学校六年 大井寛治

ぼくたちの学校は、朝日れんで人工ふ化し育てた稚魚約五千ぼうのふもとにある児童数十四名の小さな学校だ。校歌に「ますおどるよ朝日川」という歌詞があるが、昔は、学校のそばを流れる朝日川には、ヤマメの親魚のサクラマスが、たくさん泳いでいたのだそうだ。

今年、サクラマスが泳ぐ朝日川を取りもどそうと、自分たち

ぼくたちが調査したところ、朝日川のよごれは、集落の下流域で急にふえていて、原因は家庭から出るはい水のようだ。

ぼくたちが考えていたより、ずっと少なくとも、十分によこれが落とせること。合成洗剤よりも少なくとも、そこから

まずははじめに、家庭科で勉強した洗剤の特集記事をのせた。ぼくたちが考えていたより、ずっと少なくとも、十分によこれが落とせること。合成洗剤よりも少なくとも、そこから

生活はい水をきれいにして、ぼくたちのヤマメの住む朝日川をきれいにしよう。ぼくたちは立ち上がりつた。児童会で川のそばにかん板を立て、「環境新聞」で地区の人たちによびかけることにした。

まずははじめに、家庭科で勉強した洗剤の特集記事をのせた。ぼくたちが考えていたより、ずっと少なくとも、十分によこれが落とせること。合成洗剤よりも少なくとも、そこから

生活はい水をきれいにして、ぼくたちのヤマメの住む朝日川をきれいにしよう。ぼくたちは立ち上がりつた。児童会で川のそばにかん板を立て、「環境新聞」で地区の人たちによびかけることにした。

この他、立木小学校は昨年12月に行われた第28回全国野生生物保護実績発表会でも日本鳥類保護連盟会長褒賞を受賞しています。



広報「あさひまち」は再生紙を使用しています。